

## ノースカロライナ州立 Walter Bickett 幼稚園での教育実習

Practice Teaching at North Carolina State  
Walter Bickett kindergarten池 村 進  
Susumu Ikemura

## ( 要 約 )

米国ではノースカロライナ州だけでなく他の州も公立幼稚園は、公立小学校に併設されており一年保育である。私は今夏8月の一週間、ノースカロライナの州立幼稚園で教育実習の機会を得た。この州ではここ数年来、新学期は8月上旬の月曜日となっている。ここでのクラスの定員は16人で、しかも各クラスに常時一人以上のアシスタントティーチャーと専科の教員がついており、園として恵まれた人的環境となっている。学年初めということもあってか、シャイな子どもたちが多かったが、実習が進むうちにだんだんと打ち解けてきた。特に日本の文化には興味を示し、日本の歌や手遊びを喜々としてまねをしたり、落語に出てくる面白い言い回しを日本語で楽しそうに繰り返したりしていた。しかし、アメリカ人でありながら、英語があまり話せない子どもが少なからずいたのには驚いた。

## (キーワード)

幼稚園の専科教員、多民族国家、ジャパニーズフェア

## はじめに

ここ10数年、私は海外(英語圏)の学校で音楽テープとノートパソコンを持参して、様々な授業やイベントを展開してきた。時期は、7月8月の夏季休暇をあてており、対象は小学生及び大学生・大学教員である。

ここ数年間は、米国ノースカロライナ州シャーロット市にある州立ノースカロライナ大学及びシャーロット市内の小学校に毎年訪問している。大学では効果的な教授法を学んだり自作のパソコンプログラムの紹介や原理を解説したりしてきた。小学校では1つのクラスに配属されて、子どもたちの授業参観をしたりまた自分でも子どもたちに対して授業を行ったりしてきた。

ノースカロライナ州の公立幼稚園は、公立小学校に併設されており、同じ校舎内に存在する。子どもたちや教員の交流も盛んである。このことはノースカロライナ州のみならず、全米で同じような体制だそうである。

今夏は、海外研修を公立幼稚園を中心に行うことにした。滞在場所は、例年ならUNCC(University of North Carolina at Charlotte)の大学寮(Hunt Village)での自炊生活なのであるが、今回は、訪問先小学校に勤務する教員宅にホームステイをさせていただいた。食事や洗濯、風呂の用意もさせていただいたので、研修にのみ時間を充てることが出来、たいへん有り難かった。

## 1. Walter Bickett Kindergarten の概要

North Carolina 州 Charlotte の Union教育区にあり全平屋建てのWalter Bickett Elementary School に併設されている。保育室は小学校の校舎と同じ棟に7教室あり、担任教員が7人、補助員(Teacher Assistants) が40人いる。

1クラスの子どもの人数は、私の担当したMs. Engel のクラスで16人で、ヒスパニック系が6人、黒人が7人、白人が3人であった。実習期間中、園外での保育は皆無だった。

次に基本的な園での一日の日程を示す。

7:15 Morning Math

7:45 Moment of Silence, Pledge, Mission Statement

7:47 Calendar

8:10 Phonics and Word Study

8:20 Math

9:05 Snack-Fruit or Vegetable from cafeteria

9:14 CSPAM class

10:00 Interactive Writing

10:10 Writer's Workshop

10:40 Shared Reading

11:05 Lunch

11:30 Recess

12:00 Story Time

1:45 Science

2:00 Pack up and Dismiss



写真1 給食の時間



写真2 保育室に三人の指導者

## 2. 研修日程

ノースカロライナ・シャーロットでの研修期間は2008年8月6日(木)から17日(月)までの12日間であったが、幼稚園での実習は10日(月)から14日(金)までの5日間であった。他の日は大学での演習または保育所や他の幼稚園、中学校や障害者施設を訪問した。

## 3. 学校の特徴

米国の公立学校のスクール期間は、伝統的な9月新学期と1年中交代で開校している学校(year round school)と2種類ある。私が実習した学校は、1年中開校している学校である。最近こういった学校が増えている傾向にあるという。

それでも新学期というのはあって、私が訪問した3日前の8月の3日というから驚いた。

学校に初めてということもあって、子どもたちは恥ずかしがりやで言葉数は少ない方である。人種は黒人やヒスパニック系が多く白人は少ない。保護者は中・低所得者層が多いという。転校も頻繁にある

そうである。保育室には子どもたちのロッカー以外にハンガー掛け、手洗い場やトイレもあった。

#### 4. 実習開始

音楽専科の先生が、幼稚園の子どもたちに音楽を教えている。当日は日本から来た私を意識してか、日本の歌「こいのぼり」を全員で歌っていた。下左の写真は、そのときの楽譜である。次回の音楽の時間には、私は、富士山の説明と歌の指導をさせてもらった。日本独特の音楽の雰囲気を持つメロディーに子どもたちは興味津々で説明を聞き、初めて発音する異国の言葉で楽しげに歌っていた。

後半は、座って出来るシンギングダンスを皆で楽しんだ。前半の雰囲気とはうって変わって、賑やかなムードとなり、子どもたちも音楽に乗り始めてきたのである。音楽は「ディンドンダディ」アメリカの曲である。続いてロシアダンス「タタロチカ」をする頃には、教室の雰囲気は絶好調に達していた。アメリカの子どもたちは、身体表現をたいへん好んでやるものだと改めて感じた時間であった。



写真3 こいのぼりの楽譜



写真4 音楽専科の先生と子どもたち



写真5 体育館で室内ゲーム

園舎が小学校に併設されていることもあってか、音楽・体育・造形・スペイン語・コンピュータなどの活動は、小学校の教員が担当することがある。私も小学校から出前授業を依頼されて、体育と毛筆習字、日本語の指導を実践した。

ここでは同じ校舎内にある幼稚園から来た子どもたちが、同じ校舎内の小学校に入学するのでお互いのことを良く知っている級友が多い。体育の活動は、殆んどが体育館であり、運動場での活動は、少なくとも実習期間中は皆無だった。

体育館でもジェスチャーダンスを子どもたち（2年生18人）と楽しんだ。その後、じゃんけんをしながら体育館を駆け巡る「ハワイ旅行ゲーム」を紹介したら、子どもたちは活発に動き回り、担当の教員も興味を持ったらしく、しきりにメモを取っていた。

#### 5. ゼミ生と創った声の出るパソコン絵本で

私のゼミの学生たち総出で創った「にじいろのふしぎな石」（出演：N保育園児、本学2年生）のパソコン絵本を子どもたちに紹介した。画面では、5歳児の5人の子どもたちと私のゼミの学生たちが、本学キャンパスやN保育園、津市魔洞温泉を舞台に、様々な冒険が繰り広げられるのだった。

物語はオズの魔法使いの日本版といったもので、以前アニメで見たことがあるストーリーを私が脚色したものである。

物語が進行していくと、子どもたちもオズの魔法使いを意識してか、食い入るように真剣に見ていた。

画面から言葉や音楽が出るのであるが、アドリブで叫び声などを出すと子どもたちはびっくりしながらも喜んでいた。

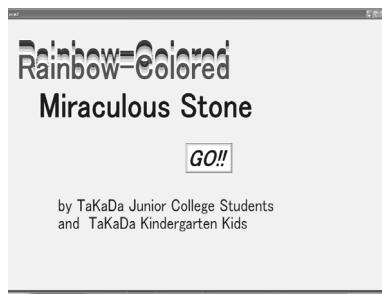


写真6 始まり始まり・・・



写真7 一本橋を渡る三人



写真8 びっくりする五人

次に子どもたちの感想を示す。

Ja'shae: the five is happy to get their hope. I'm relieved.

Isaac: I feel brave for seeing their action.

Sirlester: Five are very lovely.

Rickey: I want to see them.

Jairo: Dandan is scary but in the truth he is tender.

次にそのストーリーの一部を示す。円で囲んだ番号はシーン番号を示す。

①Mumu ! It's time to have a afternoon snack. Mumu, It's a snack !

②It's a snack, Mumu. They got tired of waiting for you.

③Haai,sorry to have kept you waiting.

Oh, is that Zizi ? To have eaten my snack ?

Oh,no.

Otherwise, is Tonto ?

No,no, I don't.

Or Kiriko ?

It's Dandan, to eat Mumu's cookies.

④Fu ! It's so slow that he eat it. Musha, musha……

Ahhhhh !

Dandan, you should not !

⑤Fu ! Bad boy ! (Dandan gets sulky )

⑥Ha ! Oh, my god !

⑦Oh my, I have done !

Hey, bedwetting Tonto, bedwetting Tonto……

⑧Muuuu…! (Tonto got angry )



写真9 タイトル画面

⑨Heave-ho ! (Tonto dries his futon in the sun)

⑩(in the Owl's room) Even so, it's too bad, Dr. Owl,……Dandan is spiteful more and more !

To tell you the truth, he is strong and gentle, I think.

Yes, I know, but these days I don't know why, he is spiteful and short tempered …

It's terribly trouble.

And what's more, Jiji is always crying. Mumu isn't to play with friends. And Capable Kiriko is not cheerful, ……

Uuuum, If we had that thing ……

You mean, the treasure of Nakayoshi-Kindergarten. The rainbow colored stone.

But, it had stolen by the terrible witch who lives in a cave of the inner forest ……

⑪Muuu ……(Tont listens under the windows )

⑫That Stone was miraculous one that gave us gentleness and bravery …… Oh, it's a good idea ! Teacher yagi, for the children, would you please get back that stone ?

No. no, it's very difficult ! Because the witch having the sharp and poisonous nails, is waiting us !

⑬Muuuu ……(Tont listens under the windows )

⑭Oh, you wouldn't …… if that nails are not, terrible power is gone …… For doddering me, ut's no use to beat her ……

It's very terrible story.

⑮(Clunk ! ) (Tonto listens under the windows )

⑯Ufufufu……(two teachers smiled seeing each other)

仲間のところへ戻ったトントは、さっき聞いたばかりの園長先生とヤギ先生の話をもみんなにするのである。その話を聞いたキリコ、ジジ、ムムたちは、にじ色の不思議な石を取り戻すための話し合いをするのである。そして事態は思わぬ方向に進んでいくのである。

この絵本映画を視聴した後、子どもたちから声優を募り、ダンダンやキリコの台詞を録音してパソコンに取り込み、その場で画面に合わせた台詞を楽しんだ。画面の5人の子どもたちが自分の声で喋るので、見学した子どもたちは大喜びだった。

## 6. 日本の伝統芸能「古典落語」に触れる

二つの小咄を演じた後、「古典落語」を披露した。内容を英訳するとき、日本と米国の習慣や文化の違いがあるので、子どもたちに分かってもらう言葉にするのに随分苦心した。

子どもの発達を鑑み、比較的短いストーリーで繰り返しを多く含む噺を選ぶと「寿限無」ということになった。日本で英訳をしていったが、よりネイティブな英語を目指し、本研修のプログラムのコーディネーター Debbie に添削してもらった。文法的には正しいが、日常的にはあまり使わない表現が少しあったみたいである。寿限無の名前は発音通りに使った。一つ一つの言葉をいちいち英訳しては噺が長くなるのと、元の日本語の発音の響きが心地よいので、そのまま使うことにした。暗記するのも簡単



になるからである。

以下にそのストーリーを示す。

(O-HA-YA-SHI)

Well, please listen to our nonsense story... There lived a boy whose name is very very very very long .....

His name was Jugemu jugemu gokou no surikire, Kaijari suigyo no suigyomatu ungyomatu fuuraimatu, Kuuneru tokoro ni sumu tokoro, yaaburakouji no yabukouji, Paipo Paipo Poipo no Shuuringan Shuuringan no Guurindai, Guurindai no Ponpokopii no Ponpokonaa no Choukyuumei no Chousuke.

One day, there came a wah wah crying boy who was hit on the head and had a bump, and he said, Aaan,aaan.....Say, ma'am, your Juge- mu jugemu gokou no suriki, kaijari suigyo no suigyomatu ungyomatu fuuraimatsu, Kuuneru tokoro ni sumu tokoro, yaaburakouji no yabukouji, Paipo Paipo Poipo no Shuuringan Shuuringan no Guurindai Guurindai no Ponpokopii no Ponpokonaa no Choukyuumei no Chousuke hit me on my head, and made this large bump. Aaan, aaan .....

Oh boy, Kin-chan, we are sorry. You said our Jugem jugemu gokou no surikiri Kaijari suigyo no suigyomatu ungyomatsu fuuraimatsu, kuuneru tokoro ni sumu tokoro, yaaburakouji ni yabukouji, Paipo Poipo Paipo no Shuuringan Shuuringan no Guurindai Guurindai no Ponpokopii no Ponpokonaa no choukyuumei no Chousuke made a bump on your head ? Oh no, he is a bad boy. “

Well , Darin', did you hear that ? Our Juge mu jugemu gokou no surikiri, kaijari suigyo no suigyomatu ungyomatu fuuraimatu, Kuu neru tokoro ni sumu tokoro, Yaaburakouji no yabukouji,PaipoPaipo Paipo no Shuuringan, Shuuringan no Guurindai Guurindai no Ponpokopii no Ponpokonaa no Choukyuumei no Chousuke made a bump on Kin-chan's head, he said !

Well, is it that our Jugem jugemu gokou no surikiri, Kaijari suigyo no suigyomatu ungyomatsu fuuraimatsu, kuu neru tokoro ni sumu tokoro, Yaaburakouji no yabukouji, Paipo PaipoPaipo no Shuurinngan, Shuuringan no Guurindai, Guurindai no Ponpokopii no Ponpokonaa no Choukyuumei no Chousuke made a bump on Kinbo's head ?

Say, Kinbo, let me see your head, .....Oh my goodness ! There is no bump ! Aaan,aaan, ..... Because so long his name is, the bump has gone !!

(O-HA-YA-SHI)

子どもたちは、繰り返しを大変喜んだ。この寿限無の名前は、Helenと Mackenzie がいつの間にか覚えてしまった。意味はもちろん分かっていないと思うが、言葉のリズムで覚えてしまったのだろうか。

## 7 日本流リズムダンスで汗かき交流

小学校と併設であるが、運動場とする保育は、実習期間中一度もなかった。ただRecess という時間がある、ある一定時間(10分くらい)教師のもとで、一人または二、三人で遊ぶことがある。子どもたちは積極的には遊ぼうとはせず、立ち話をしている姿が多く見られた。

遊具もあまりないが、登り棒に私が上まで登ったら、数人の子どもが歓声をあげて私の周りに集まってきた。子どもたちも登り棒を試すが登れた子どもはいなかった。Recessの時間は短く、子どもたちは又、園舎に入ることになる。

担任のMs. Engelから時間をいただいたので、保育室で簡単なダンスをすることにした。8つの動作からなるオリジナルダンスを紹介したら、子どもたちは思わず歓声をあげてダンスに興じた。途中、Ms. Engel の飛び入りがあり、ダンスはダイナミックになった。驚いたことに、ときたま前を通りかかったMs. Benson (校長兼園長)の飛び入りも加わって、ダンスはよりダイナミックなものになった。

続いて、ロシアンダンス、タタロチカをみんなで楽しんだ。これは運動量が多いので、全員汗だくになってしまった。子どもたちは普段、体を動かすことはあまりしていないみたいである。しかし体を動かして、みんなと交流したのでお互い、話しをする場面もたくさん出てきたみたいである。

ときどき聞き取れない言葉を発する子どもがいるので、自分の英語力不足かなと思っていたら、それは何と、スペイン語だった。子どもたちの中には、英語がまだうまく喋れなくて、無口になっているときも多いそうである。

多民族国家であるアメリカの実情を肌で感じた一場面であったが、そのためのサポートはあらゆる場合を想定して、たくさんのスタッフとプログラムが準備されている。

## 8 身近な素材で科学遊び

子どもは遊びの達人である。身の回りにある何でもないものでも、たちまち、おもちゃにしてしまう。

今回は、どこにでもあるペットボトルとストローを使って発泡スチロールの球を浮かべる遊び、題して「空中遊泳」Midair Playing を試みた。

まず最初に、ペットボトルの上部10分の1をハサミで切り取り、キャップにストローの太さの大きさの穴を開けた。穴開けは電動ドリルを用いたので筆者が担当した。

折れ曲がるストローを切り取ったペットボトルの上部のキャップの穴に通し、発泡スチロールの球を入れる。ストローを吹いてその球を空中に浮遊させるのである。

ストローを強く吹くと、球はペットボトルから飛び出してしまい床に落ちてしまう。ゆっくりだと、全然、浮かばない。ストローを吹く吹き加減がコツなのである。

これは流体力学で扱う、ベルヌーイの定理を応用したものであるが、子どもたちは気持を発泡スチロールの球一点に集中させて一生懸命である。

やがて、そのコツをつかんで、球をうまく浮かばせる子どもが出てくる。部品が少なかったので交替して遊ぶ子どもの姿が見られた。ストローは人数分用意できたが、ペットボトルの数が少なかったのである。まさか飛行機で来るのに手荷物にペットボトルをそんなにたくさん入れて持ってくるわけにもい

かなくて・・・

中には球を空中に5秒間以上も浮かばせる子どももいたが、勢い余って球が床に落ちてしまい、なかなか浮かべさせられない子どももいた。そんな子どものために、パソコンにストローをつないで、ストローの吹き加減に応じて色々楽しく変化するパソコン画面を見ながら、ストローを吹く練習も試みた。

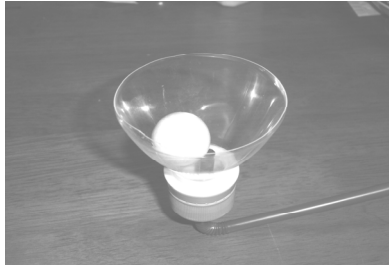


写真10 空中遊泳のおもちゃ

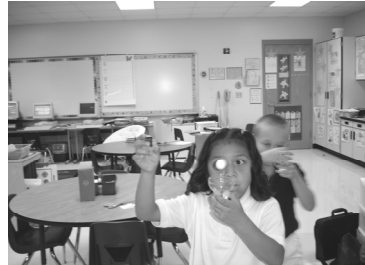


写真11 真剣な表情で空中遊泳



写真12 保育室内に砂場が

次に、子どもたちの感想を紹介する。

Merry: It's very fantastic.

Tomas: I want to my brother to try this at home.

Anilu: I'm glad to success with the straw.

Fernando: It's cool !

Heidi: It's difficult but interesting. Maico: I'm happy the ball float in the air.

Mackenzie: At the third time, It's my pleasant I could let the ball float in the air.

パソコンにストローを接続して息を吹いて画面を操作するのは自作のソフトである。

これは、パソコンにADコンバータを接続し、そのコンバータに気圧センサー接続する。ADコンバータとは、アナログのデータをデジタルのデータに変換する基板である。自作の変換器もあるのであるが、携帯に便利な市販されている小型の変換器を、ここノースカロライナに持参した。

パソコン画面へは、息の吹いている状態をイラストでよく分かるように表示した。さらに、球が浮かんでいる状態が長く続くと、その時間に比例して画面の梅の木に梅の花が次々と開花するようにプログラミングした。最後にウグイスが飛んできて一声、鳴くのである。

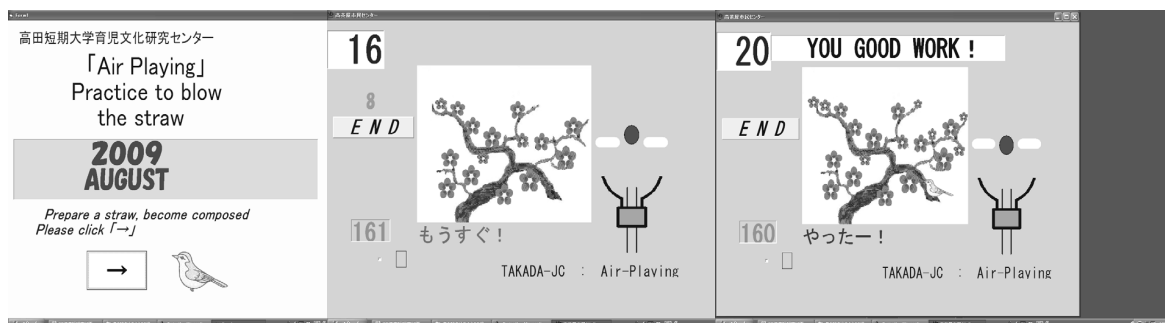


写真13 ストローを準備する

写真14 ストローを吹いて

写真15 赤球を浮かばせる



## 9. 全園あげてのジャパニーズフェア

実習最終日の金曜日には、幼稚園全体が日本の文化一色になった。「ジャパニーズフェア」を開催させてもらった。日本の縁日の様子を再現して子どもたちに楽しんでもらおうと企画したのだ。

金魚すくいでは色とりどりのビニールの金魚を紙製のたもですくってもらった。最初のうちは、まだ十分にルールが飲み込めていないのか、手でつかむ子どもが続出した。水中でキラキラ光る金魚に子どもたちの関心が集まった。

風船ヨーヨー釣りも注目の的だった。このときもすぐに手でつかもうとする子どもがいたので、じっくりとルールの説明をした。ヨーヨー風船の輪ゴムに指を通してうまく上下に風船を操る子どもが何人かいた。まさに子どもは遊びの達人である。



写真16 ヨーヨー風船



写真17 金魚すくい



写真18 みんなでダンシング！

BGMに日本の童謡を会場に流して雰囲気盛り上げた。日本の昔話のDVDのコーナーや日本のお菓子を試食するコーナーも設けた。相撲ゲームを楽しむコーナーもあった。子どもたちは何人かのグループに分かれて、順次、それぞれのコーナーを巡り、異国の文化にじっくりと浸っているみたいだった。

## 10. まとめと課題

忙しい実習期間ではあったが、得たものはたくさんあった。小学校と同じ校舎に併設されているため、小学校とも日常的に交流があり、小学校からも出前講座を依頼された。小学校では子どもたちから次々に質問が出た。

幼稚園の一日の活動を概観すると、読み書き算数ありで、子どもたちが自分で選んでする活動が余りない印象を受けた。それは基本的な園での一日の日程にも表れていると思う。一見、自由遊びのように見えても、実は教師が遊びのローテーションを子どもたちに指示していたこともあった。砂場遊びというのもあったが、保育室の床に置いた木箱の中の砂をスコップですくって遊ぶ子どもの姿があった。

もう一つ特筆すべきことは、教職員の数が豊富だということである。幼稚園の担任以外に専科の教員や補助教員が何人か指導に入っている。園の事務管理は小学校と共通のスタッフで運営されており、Principal Benson氏は携帯機器を腰に下げ、四六時中、園舎及び校舎、運動場を巡回していて、校長室にいることは、ほとんどない。セキュリティは万全である。

子どもたちはというと、廊下の一列歩行はきちんと守られており、事情で人の前を通る場合は、We're sorry. と必ずことわりを言っていた。

Please go ahead. (お先にどうぞ)もよく使われる言葉だ。ただ日常会話が英語だけではないというところが気になるところである。普段、無口な子どもが、スペイン語の時間には、急に得意げにスピーチをするのには驚いた。

米国では国家としての統一した幼児教育に対する法律はなく各州に任せている。保育所参観の時日本の教育要領や指針に準じた冊子を購入したので、今度は文献による米国の幼児教育事情を研究してみようと思った。

#### 参考文献

Debby Cryer “All About The ECERS-R, All About The ITERS-R” KAPLAN (2009)